

## 第 4 回 豊橋市行財政改革プラン外部検証委員会

1. 開催日時 平成 28 年 12 月 20 日（火）午後 3 時 30 分～午後 5 時 00 分
2. 開催場所 豊橋市役所政策会議室（東館 4 階）
3. 出席者 委員 7 名（石原委員長、世羅副委員長、伊藤委員、大久保委員、  
諏訪委員、富田委員、村松委員）  
豊橋市 7 名（野尻総務部長、木和田行政課長、前田行政課主幹、  
野中行政課長補佐、石川主査、丸山、山本）
4. 欠席者 功刀委員
5. 会議概要 以下のとおり

発言者	要 旨
事務局 (行政課長)	定刻となりましたので、ただ今から、第 4 回豊橋市行財政改革プラン外部検証委員会を開催いたします。 開会にあたりまして総務部長の野尻より一言ご挨拶を申し上げます。
野尻総務部長	本日も師走のお忙しい中、また寒い中、出席いただきありがとうございます。 今年度、委員の方々には旧プランの総括を始め、イベントの見直し等にご意見をいただきありがとうございます。 外部検証委員会も今回が今年度最後となります。本日は、旧プランの外部評価コメントに対する今後の方針をご確認いただくとともに、来年度から実施します新しい行革プランの進捗管理についてご意見を伺いたいと考えていますのでよろしくお願い申し上げます。
事務局 (行政課長)	それでは、ここからは石原委員長に進行をお願いしたいと思います。 それでは、委員長、よろしくお願いいたします。
石原委員長	それでは、ただいまから議事に入ります。議事 1 つ目の、「行財政改革プラン総括の外部評価を踏まえた対応状況について」、事務局より説明を願います。
事務局 (行政課主幹)	《説明》
石原委員長	ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。
村松委員	今後の対応としての各課回答が全体として曖昧で、具体性に欠ける。実際にどのように取り組んでいくのか、今後見て

発言者	要 旨
村松委員	いきたいと思っているが、この回答では説得力が感じられない。
事務局 (行政課主幹)	どのように実効性を高めていくか、各課に具体的な実施につなげてもらうかは、今後の行革においても課題であると認識しています。
石原委員長	シティプロモーション課や観光振興課の取組に関連して、内閣府が地方創生カレッジという、eラーニングを活用した人材育成を始めている。こうした eラーニングでの勉強を職員に公務として認めて、プロモーション活動にはまず何をすべきなのかなど具体的に考えられる人を育てる取組を行っていくことも必要である。
諏訪委員	公園緑地課の公園管理業務の指定管理者の検討については、数年前から名古屋市で実施して成果が出ているので、よければ参考にして欲しい。 資産税課の固定資産税の捕捉率向上については、今後も東三河広域連合で撮影する航空写真の活用を進めるとよい。
大久保委員	建築指導課の耐震改修の取組については、木造住宅だけではなく、老朽化した鉄筋コンクリート住宅の取組についても更に充実させてもらいたい。 動植物公園の自主財源確保の取組は、チケットのセット販売を動植物公園だけでなく他施設も含めてタイアップした取組を行うとよいのではないか。
世羅副委員長	シティプロモーション課の取組は、もうこれ以上進めないということなのか、民間との連携で何をしようとしているのか回答からわかりづらい。 市民協働推進課の基金の取組についても回答が抽象的なので、寄付額の目標などあったほうがわかりやすい。
石原委員長	東近江市などで始めている、行政がお金を出すのではなく、民間からお金を集めるクラウドファンディングの仕組みづくりにも取り組んでももらいたい。
村松委員	寄付については、銀行で実施しているプロスポーツの勝敗と利率を連動させる取組なども参考にして、トヨッキー基金だけではない、お金を集める仕組みをよく考えてほしい。

発言者	要 旨
総務部長	現在は小さな取組しかできていないため、これからそういった仕組みを育てていきたいと考えています。
大久保委員	ふるさと納税についても他市町村に税金が流出しないように努力して欲しい。
事務局 (行政課主幹)	今年度からは返礼品を充実させています。今後も流出防止に努めていく必要性を感じています。
石原委員長	続きまして、「行財政改革プラン2016の評価・進捗管理について」と「事務事業の総点検の実施について」、事務局より説明を願います。
事務局 (行政課主幹)	《説明》
石原委員長	ただ今の説明についてご意見・ご質問はありますか。
大久保委員	プランの施策評価について、施策の目標値の達成状況に対する評価表現・言葉に違和感があると感じる。
事務局 (行政課主幹)	言葉の表現等について、再度検討していきます。
石原委員長	事業の検証後に各課へ通知をする段階で、監査委員事務局に報告を行うことで、行政監査の基礎資料とする、監査委員等の意見を聞くなど、よりよい取組にすることができるのではないかと考える。
村松委員	今年度まで、外部検証委員は取組の評価を行ってきたが、次年度の外部評価委員の役割は、意見を述べることになるのか。
事務局 (行政課主幹)	どのように委員の方々に関わっていただくか、現在検討をしているところです。
石原委員長	<p>事業の評価は予算編成と乖離してしまいがちであり、評価を予算へ反映させることはなかなか難しいと思う。しかし、今後実施する事業内容やお金の使い道を決めるには、やはりこれまでの反省と現状認識が必要不可欠である。</p> <p>事業の評価を今後の方針や対応、業務改善、予算編成などと連携・反映させることでみんなが使える、軸になる仕組みを構築できるとよい。</p>

発言者	要 旨
諏訪委員	<p>各課の担当職員は、事業の執行のみを行えば事足りる状況になっている。行革等の事業の計画・方針と事業の執行を、例えば一つの調書にまとめる、実施者を一致させるなどすることができれば、各課の負担感も減り、また、執行と評価や予算を連携させることができるのではないか。</p>
石原委員長	<p>S I M 2 0 3 0 の研修を実施するにあたり、庁内職員に留まらず、市民や議員、近隣市町村にも広げる方法もある。</p>
石原委員長	<p>他にご意見がなければ、本日の議題は以上となります。また、本日を以て旧行革プランの外部検証委員会は終了となります。長い間、皆様ありがとうございました。</p> <p>それでは、これで本日の外部検証委員会を終了いたします。事務局にお返しします。</p>
事務局 (行政課長)	<p>長時間にわたるご審議ありがとうございました。本日いただきましたご意見を来年度の運営に生かしてまいりたいと考えておりますので、引き続きご指導・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p>